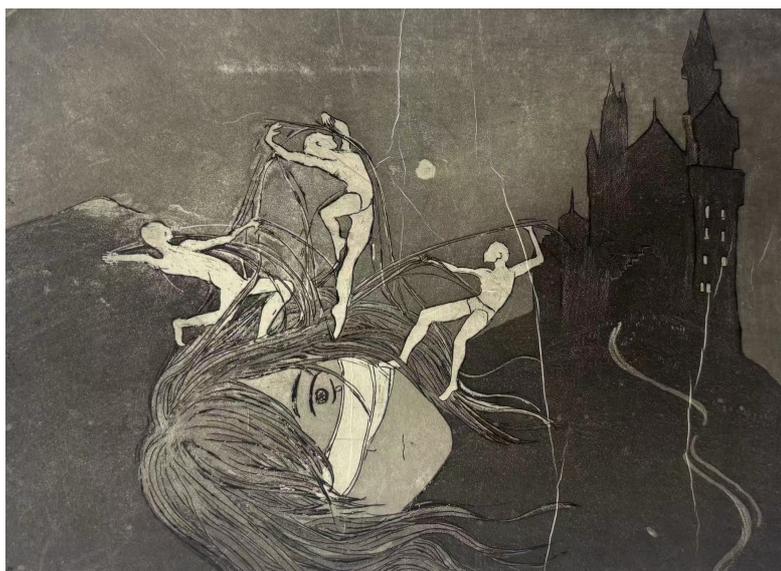


美術専攻 版画研究領域

シン イチメイ

秦 一明



手製本 /
怪物ベット /
星影の岸 / 潮煙 / 日月城 / 偏頭痛

手製本 / 銅版画、エッチング、アクアチント

手製本 /
怪物ベット /
星影の岸 / 潮煙 / 日月城 / 偏頭痛

夢に残された痕跡

本制作は、夢を通して立ち上がる個人的な記憶、身体感覚、感情の断片を視覚化することを目的としている。ここで扱う夢は、現実から切り離された非日常的な出来事ではなく、日常の経験や過去の記憶、身体的な痛みや不安が重なり合い、変形された像として現れるものである。本作では、夢を物語として再現するのではなく、その構造や感覚の在り方そのものに注目し、全10点の銅版画によって構成した。

題材には、幼少期に抱いていた暗闇への恐怖、高校時代の信仰的な憧れや祈りの記憶、異国で生活する中で感じた不安や圧迫感、そして現在も繰り返される偏頭痛といった身体的経験が含まれている。これらは時間軸や場所を越えて夢の中で再編成され、現実と想像、過去と現在の境界を失いながら、一つの風景として現れる。各作品は独立した夢の断片であると同時に、連続して鑑賞されることで、内面の変化や感情の推移をたどる構造を形成している。

作品において繰り返し現れる列車、城、夜景、身体、植物、動物の骸、剣といったモチーフは、固定された象徴ではなく、その都度異なる感覚や記憶と結びつきながら、夢特有の曖昧な意味を帯びて現れる。恐怖や不安といった否定的な感情も、排除される対象ではなく、長く共に存在してきた感覚として画面に留められている。

表現手法として銅版画を選択したのは、制作過程における身体性と時間性が、夢や記憶の性質と強く結びついているためである。エッチングによる線刻は思考や神経の緊張のように画面に刻まれ、アクアチントによる階調は、感覚が滲み、沈殿し、重なっていく状態を支えている。また、一部の作品ではコラージュの手法を用い、像の不安定さや夢における視覚の断絶を画面上に明示している。

本作は、夢を解釈したり意味づけたりすることを目的とするものではない。むしろ、夢がもつ不確かさや、目覚めた後にも残り続ける感覚の余韻を画面に留め、鑑賞者が自身の記憶や感覚と重ね合わせるための余白を残すことを意図している。